

二次元ハンドスキャナ

M-10USB

取扱説明書

Ver. 1.0

インタフェース：USBキーボード
USB仮想COM



はじめに

このたびは定置式二次元スキャナ M-10USB をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、M-10USB の外部機器との接続方法および内部パラメータの設定方法について記載してありますので、初めて M-10USB を使用する前に必ずお読みください。

ご注意

- (1) 本書の内容の全部または一部を無断で複製することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- (3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがございましたら巻末の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願い申し上げます。
- (4) 本書に基づいて M-10USB を運用した結果の影響については、前項(3)にかかわらず弊社では責任を負いかねますのでご了承くださいようお願い申し上げます。

商標について

Microsoft[®] Windows[®]は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の商標および登録商標は、所有各社に帰属します。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商法です。

目次

安全上のご注意	1
各部の名称と機能.....	3
M-10USB 外形図	4
スキャンマップ	5
トラブルシューティング	6
セットアップ.....	7
M-10USB (USB キーボードインタフェース) のセットアップ	7
M-10USB (USB 仮想 COM) のセットアップ	7
設定手順	8
バーコードにて設定を行う場合	8
QRコードにて設定を行う場合	8
出荷時設定	9
バーコードでの出荷時設定	10
通信設定	11
CAPS LOCK の設定.....	11
読取り動作の設定.....	12
キャラクタ間ディレイ時間の設定	12
キーボード接続の設定	13
漢字出力モードの設定.....	14
1) キーボード言語を設定する。	14
2) 文字コードを設定する。	14
3) 出力モードを設定する。	15
読取りブザー設定.....	15
読取り時ブザー音の ON/OFF 設定.....	15
読取り時ブザー音量設定	16
読取り時ブザー音長の設定	16
読取り時ブザー音程の設定	17
起動時のブザー音の設定	17
読取り動作設定.....	18
デコード多重チェック	18
検知モード	19

二度読み防止時間の設定	20
オートトリガスリープの設定	21
複数読取りの設定	22
液晶優先モード	22
照明及びエイミングの設定	23
読取りLED照明(赤色LED)の設定	23
反転バーコード(二次元コード)	24
データフォーマットの設定	25
はじめに	25
プリフィックスの設定	26
データキャリア識別子について	26
データキャリア識別子の付加	26
データキャリア識別子とは…	27
サフィックスの設定	28
ターミネータについて	28
ターミネータの解除	28
ターミネータの設定	29
コモンサフィックスの解除	29
読取りバーコード(二次元コード)の設定	30
全コード種別読取り許可(アドオン除く)	30
全コード種別読取り禁止	30
コード 39 の設定	31
読取り設定	31
フル ASCII 変換	31
スタート/ストップキャラクタの転送	31
チェックキャラクタの検証	32
チェックキャラクタの送信	32
読取り桁数範囲の指定	33
最小読取り桁数の指定	33
最大読取り桁数の指定	33
インターリーブド(INTERLEAVED) 2of5 の設定	34
読取り許可/不許可	34
チェックキャラクタの検証	34
チェックキャラクタの送信	34
読取り桁数範囲の指定	35

最小読取り桁数の指定	35
最大読取り桁数の指定	35
インダストリアル(INDUSTRIAL) 2OF5 の設定	36
読取り設定	36
チェックキャラクタの検証	36
チェックキャラクタの送信	36
読取り桁数範囲の指定	37
最小読取り桁数の指定	37
最大読取り桁数の指定	37
マトリクス(MATRIX) 2OF5 の設定	38
読取り設定	38
チェックキャラクタの検証	38
チェックキャラクタの送信	38
読取り桁数範囲の指定	39
最小読取り桁数の指定	39
最大読取り桁数の指定	39
UPC-A/UPC-E の設定	40
読取りの設定	40
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送	40
UPC-A	40
UPC-E 設定	41
先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送	41
UPC-EをUPC-Aに変換する	41
EAN/JAN の設定	42
読取り設定	42
定期刊行物コード(新雑誌コード)の設定	43
チェックキャラクタの転送	43
ISBN 変換	44
書籍二段コードの読取り設定	44
書籍二段コードのデータ連結出力の有効/無効の設定	44
コーダバー(CODABAR / NW-7) の設定	45
読取り設定	45
スタート/ストップキャラクタの転送	45
チェックキャラクタの検証	46
チェックキャラクタの送信	46
読取り桁数範囲の指定	47
最小読取り桁数の指定	47



最大読取り桁数の指定	47
コード 128 (EAN128 含む) の設定	48
読取り許可	48
コード 128 の読取り桁数範囲の指定	48
最小読取り桁数の指定	48
最大読取り桁数の指定	49
GS1変換	50
GS1-128 の GS1 変換無効の設定	50
GS1変換のデータをスキャナ内で加工出力する場合	51
変換モード1	51
変換モード2	52
変換モード3	53
変換モード4	54
GS1-128 の読取り桁数範囲の指定	55
最小読取り桁数の指定	55
最大読取り桁数の指定	55
GS1 DATABARの設定	56
読取り設定	56
GS1 DataBar	56
GS1 DataBar Limited	56
GS1 DataBar Expanded	56
GS1 DataBar Composite	56
コード 93 の設定	57
読取り設定	57
読取り桁数範囲の指定	57
最小読取り桁数の指定	57
最大読取り桁数の指定	58
MSI/PLESSEY の設定	59
読取り設定	59
読取り桁数範囲の指定	59
最小読取り桁数の指定	59
最大読取り桁数の指定	60
PDF417 の設定	61
読取り設定	61
マイクロ PDF417 の設定	61
読取り設定	61
QR CODEの設定	62

読取り設定	62
MICRO QR CODEの設定	62
読取り設定	62
DATA MATRIX (ECC200) の設定	62
読取り設定	62
AZTEC CODEの設定	63
読取り設定	63
MAXI CODEの設定	63
読取り設定	63
OCRの設定	64
マイナンバー	64
免許証ナンバー	64
ISBNコード	64
保守メニュー	65
ファームウェアのバージョン確認	65
附属書1. フル ASCII バーコード	66
附属書2. 特殊キー対応バーコード	77
コモンサフィックス用設定QRコード	80
サンプルバーコード	81


安全上のご注意


ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。

本書では、製品を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の記号を用いて、守っていただきたい事項を示しています。







 警告	<p>この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 注意	<p>この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>

記号の意味:

 記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを示しています。

 記号は、禁止(してはいけないこと)であることを示しています。

 記号は、必ずして欲しい内容を示しています。

 警告	
<p>重要:システム設計者へ</p> <p>◆ 薬品の管理など、人命に影響を与える可能性があるシステムでは、データが誤った場合でも人命に影響を与える可能性が無いよう、冗長設計、安全設計には十分ご注意ください。</p>	
<p>◆ 次のような場合は、すぐにホスト側の電源を切り、インタフェースケーブルのコネクタを抜いて販売店にご連絡ください。</p> <p>そのまま使用すると、火災や感電、事故または故障の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 煙がでている場合、変なおいや音がしている場合 ➤ 製品の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入った場合 ➤ 製品を落とすなどして動作しなくなった場合、ケースが破損した場合 	
<p>◆ 製品を分解したり、改造したりしないでください。</p> <p>事故や故障の原因になります。</p>	
<p>◆ 湿気の異常に多い場所や水滴のかかる可能性のある場所では使用しないでください。</p> <p>火災や感電、故障の原因になります。</p>	
<p>◆ 製品の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼしたりしないでください。</p> <p>火災や感電、故障の原因になります。</p>	

◆ 濡れた手で、インターフェースケーブルなどを接続したり取り外したりしないでください。感電の原因となることがあります。



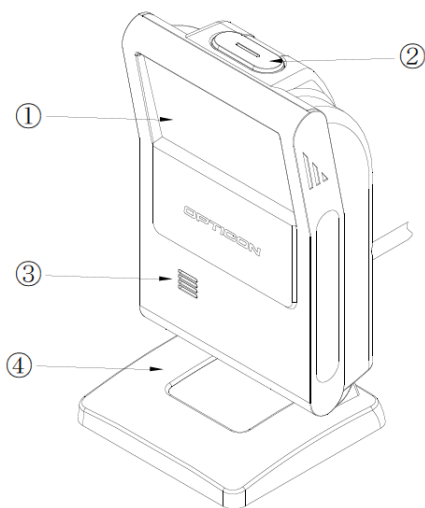
⚠注意

次のようなことは、絶対に行わないでください。守らないと、火災や感電、事故または故障の原因となります。

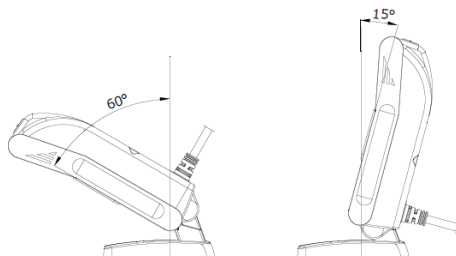
- スキャナ本体やインターフェースケーブルの上に重たいものを置かないでください。また重いものの下敷きにならないようにしてください。
- スキャナ本体をたいたり落としたりして衝撃を与えないでください。
- 不安定な場所に置かないでください。
- インターフェースケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、強く引っ張ったりしないでください。



各部の名称と機能



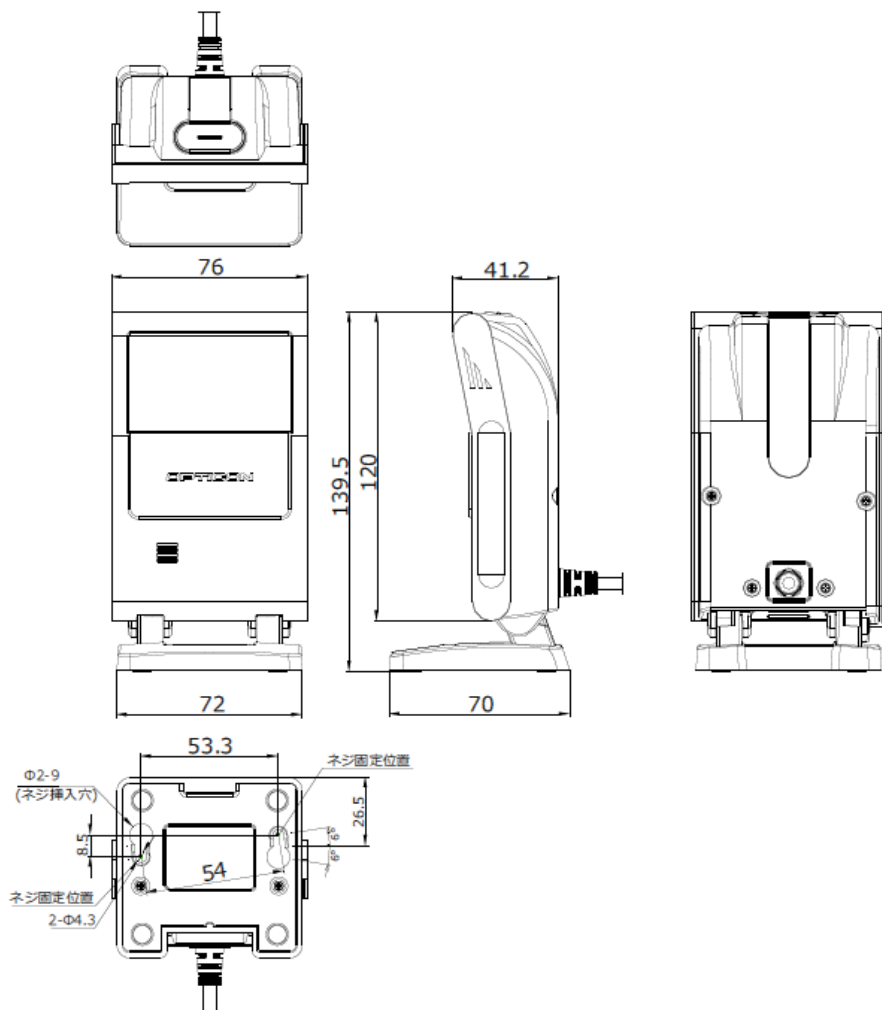
記号	名称	機能
①	読取り窓	読取りコードをかざすための窓です。
②	トリガキー	特定のバーコードを手持ちで読取る場合に使用します。
	ステータスLED	読取り待機状態: 薄い青色LEDが点灯 読取り成功時 : 明るい青色LEDが点灯
③	ブザー音孔	内蔵しているブザーの音を外部に伝えるための孔となります。
④	スタンド	スキャナの角度を調節できるスタンドです。



M-10USB 外形図

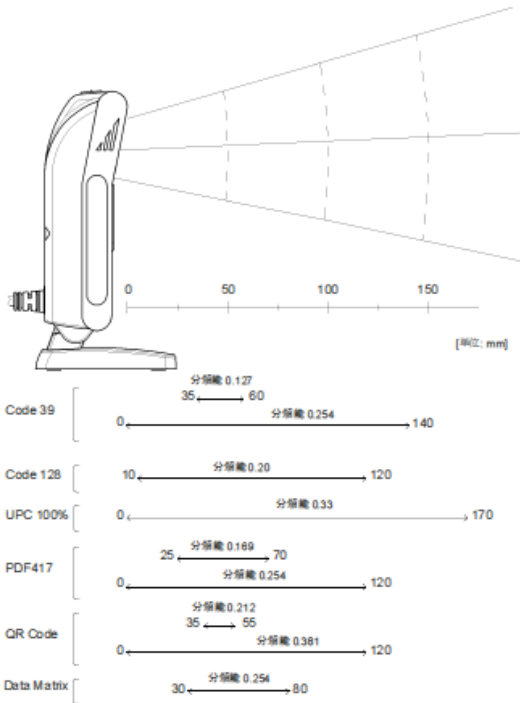
外寸:76.0mm×70mm×139.5mm

質量:約 250g(ケーブル含まず)



スキャンマップ

項目	仕様	備考
最小分解能	CODE39 :0.127mm	メーカーチャートによる
	GS1 DataBar :0.169mm	
	Composit Code :0.169mm	
	PDF417 :0.169mm	
	QRコード :0.169mm	
	Data Matrix :0.212mm	
幅広コード	幅 100mm, CODE39, 分解能 0.2mm (深度:95mm) 読取り可能	
耐移動体	移動速度 2m/秒, UPC100% (深度:65mm) 読取り可能	



トラブルシューティング

現象	考えられる原因	解決方法
スキャナにまったく反応がない・LED が点灯しない・ブザー音が鳴らない・光が出ない。	◆ 電源が入っていない可能性があります。	マニュアルの「セットアップ」を参照して、スキャナを接続してください。
	◆ ケーブルが断線している可能性があります。	接続が正しく行われているかご確認ください。
	◆ スキャナが故障している可能性があります。	
スキャナは機能しているが、バーコードを読取らない。	◆ 読もうとしているバーコードの種類が読取禁止になっている可能性があります。	バーコードの読取許可を行ってください。
	◆ 読もうとしているバーコードの桁数が設定の範囲外になっている可能性があります。	バーコードの桁数を設定してください。
読取音はするがデータが表示されない。	◆ ケーブルが断線している可能性があります。	接続が正しく行われているかご確認ください。
バーコードが桁落ちする。	◆ ホスト機器のデータ受信が追いついていない可能性があります。	「キャラクタ間ディレイ時間の設定」を行ってください。

上記をお試しいただいても症状の改善が見られない場合は、故障の可能性がありますので、修理依頼書をご記入の上、修理依頼品と同梱で下記住所へお送りください。

尚、修理ご依頼時の送料はお客様ご負担になりますので、ご了承くださいませようお願いします。

送り先住所:

〒110-0016

東京都台東区台東3-42-5 日栄インテック御徒町第1ビル 8階

日栄インテック株式会社 Auto-ID グループ 修理担当者 宛

電話 03-5816-7141

セットアップ

M-10USB (USB キーボードインターフェース) のセットアップ

- (1) USBコネクタを接続機器のUSBポートに接続してください。
- (2) M-10USB を初めて繋いだ場合は、ドライバのインストールが自動で行われますので繋いだ後は 1・2 分繋いだ状態のまま放置しておいてください。
- (3) キーボード信号を出力できるソフト(メモ帳やエクセル等)を立ち上げて頂き下記のバーコードを讀ませてみてください。



12345678

- (4) 「12345678」と出力されればセットアップ完了となります。

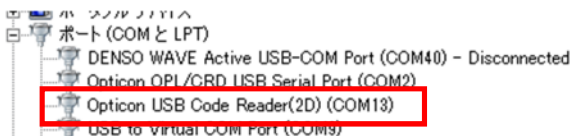
M-10USB (USB 仮想 COM) のセットアップ

USB仮想.COM で M-10USB を動作させる場合、キーボードインタフェースのようにUSBポートに繋ぐだけでドライバのインストールが行われません。このため M-10USB をUSBポートに繋ぐ前に専用のドライバをインストールする必要があります。

- (1) 下記 URL よりドライバをダウンロードしてください。

<http://www.barcode.ne.jp/download/410.html#M-10USB>

- (2) ダウンロードしたものを解凍して頂くと中にインストール用のマニュアルが入っていますのでご参照の上、ドライバのインストールを行ってください。
- (3) M-10USB をドライバをインストールした機器のUSBポートに接続してください。
※初めて繋いだ場合は、キーボードインタフェースの手順が発生します。
- (4) P11 の通信設定の項目のUSB仮想.COM 設定用QRコードを讀ませてください。
- (5) 暫くするとキーボードインタフェースの時と同じように自動でドライバのインストールが行われますので 3・4 分繋いだ状態のまま放置しておいてください。
- (6) デバイスマネージャーの画面を開いてポート(COMとLPT)の項目を見てください。
下図のような項目が出来ていれば接続完了となります。



※こちらの場合、通信を受け取るためには RS232 信号を受け取れるソフトが必要となりますのでご注意ください。(弊社では受け取れるソフトとして「RS-receiver Lite」というソフトを販売しております。)

設定手順

バーコードにて設定を行う場合

- (1) 変更したいパラメータの記載されているページを開きます。
- (2) M-10 を手に持ち『設定開始』のバーコード付近で上部のトリガキーを一回押します。
- (3) 緑色シングルラインエイミングのみが照射された状態になるので『設定開始』のバーコードにエイミングを合わせてもう一度トリガキーを押します。
- (4) ブザーが「ピロリッ」と1回鳴り、一定間隔で「ピッ、ピッ・・・」と鳴り続け、エイミングの光が点灯状態となります。(設定モード状態)
- (5) 変更したいパラメータの設定バーコードに緑の光を当ててトリガキーを押すと読取ります。『設定開始』バーコードを読取ったときと同じブザー音で「ピロリッ」と1回鳴ります。
- (6) 『設定終了』バーコードを読取ります。ブザー音で「ピロリッピロリッピロリッ」と3回鳴ります。

これで設定完了となります。

複数のパラメータを変更する場合は、(4)の状態でも変りたいパラメータを複数読んだ後に『設定終了』のバーコードを読んで頂くと一度に複数の設定を行うことが可能です。

※設定内容がわからなくなってしまった場合は、一度『出荷時設定』に戻してから、必要に応じてパラメータを変更してください。

QRコードにて設定を行う場合

QRコードの場合は、設定したい項目のQRコードを M-10USB にかざして頂けただけで設定が可能です。

※QRコードにて設定を行う場合、周りのQRコードも読んでしまう可能性がありますので周りのQRコードは隠して頂くか、読ませたいQRコードだけ切り取って読ませるようにしてください。

出荷時設定

M-10USB を出荷時設定(設定項目名に下線が付いている設定)に戻すには、下記の設定QRコードを読み取ります。

※弊社出荷時には、日本語キーボードにあわせて動作するように、下記の設定を行った製品を出荷しております。

※下記QRコードが読めない場合は、次ページのバーコードでの出荷時設定にて初期状態に戻してください。



バーコードでの出荷時設定

前ページのQRコードが読めない場合は、こちらのバーコードにて出荷時設定を行ってください。

バーコードを読む際は、P8 の設定手順を参照の上、設定を行ってください。



設定開始



USBキーボードインタフェース



日本語キーボード



設定終了

通信設定

M-10USB は出荷時設定のUSBキーボードインタフェース以外にUSB仮想COMに設定することができます。(USB仮想COMは専用のドライバやアプリケーションを必要とします。データを一括で送信するためデータ量の多い二次元コードでも比較的早くデータを転送することができます。)



USB仮想COM



USBキーボードインタフェース

※USB仮想COMに設定する場合は、先に弊社ホームページより専用のUSBドライバをダウンロードし、インストールを行った上で設定の変更を行うようにしてください。

※上記二次元コードで設定すると初期状態になりますので設定を施されていた場合は、再設定が必要となりますのでご注意ください。

Caps Lock の設定

『Caps Lock ON』に設定すると、バーコードデータのアルファベットの大文字を小文字に、小文字を大文字に変換します。

『自動 Caps Lock モード』を設定すると、キーボードの Caps Lock 状態にかかわらず、全て作成したバーコードデータの大文字/小文字に依存して出力されます。(PC の Caps Lock が ON になっているが、作成したバーコードデータ通りの大文字/小文字で出力したい場合に有効です。)



Caps Lock OFF



Caps Lock ON



自動 Caps Lock モード

読取り動作の設定

キャラクタ間ディレイ時間の設定

PC/ホスト機器の受信処理が遅い場合、1つ1つのキャラクタ送信間にディレイ(遅延)を発生させることで確実にデータを送信する機能です。(初期設定:キャラクタ間ディレイなし)



キャラクタ間ディレイなし



ディレイ 6



ディレイ 8



ディレイ 18

キーボード接続の設定

接続する機器で使用しているキーボード言語の設定ができます。(初期値: 日本語)



日本語



英語



イギリス



ドイツ



フランス



中国

漢字出力モードの設定

QRコード内に2バイト文字(かな・漢字等)が含まれていた場合、初期設定状態でこのQRコードを読むと2バイト文字が正常に出力されません。これを解消するためには2通りの方法があります。1つはP11に記載の『USB仮想COM』に設定する方法です。この場合、出力先の機器にシリアル信号を受けるためのソフト等が必要になります。もう1つは、下記設定を行うことでキーボード信号のまま出力する方法です。※但し、下記設定は出力先等によってうまく機能しない場合がありますのでご確認の上、うまくいかない場合は『USB仮想COM』の設定での運用をご検討ください。

キーボード信号のまま2バイト文字を出力するためには下記の3つの項目を設定する必要があります。

1) キーボード言語を設定する。

キーボードは、各国でキーの配列が異なります。そのため、キーボードの言語を正しく設定する必要があります。



日本語



英語

※前ページにも幾つかの言語設定用QRコードを載せていますのでご参照ください。

2) 文字コードを設定する。

読み取るコードがどの文字コードで作成されているかを設定する必要があります。



シフトJIS



UTF-8

※UTF-8に設定時は、Unicodeに変換して出力します。

3) 出力モードを設定する。

データをどのように出力するかを設定する必要があります。



漢字出力モード1(MOST仕様)



漢字出力モード2(Windows仕様)

※漢字出力モード1を設定する場合、MOSTと言うメーカー専用ソフト（無料）をインストールする必要がありますので下記URLよりダウンロードの上、インストールをお願い致します。

Wordに出力する場合は、こちらに設定してください。

※H I Dの特性上、環境に強く依存します。いずれの設定でも必ず出力される訳ではありませんのでご了承ください。

http://www.opto.co.jp/products/tool/ToolDownload_temp.html

※上記URLはメーカー様のホームページのダウンロードページとなります。

読取りブザー設定

読取り時ブザー音の ON/OFF 設定



ON



OFF

読取り時ブザー音量設定



最小



中



大



最大

読取り時ブザー音長の設定



50 ミリ秒



100 ミリ秒



200 ミリ秒



400 ミリ秒

読取り時ブザー音程の設定



中音



中音→低音



中音→高音



高音

起動時のブザー音の設定



あり



なし

読取り動作設定

デコード多重チェック

1回の読取り動作で、自動的に2回以上連続して読取り、その結果を照合することにより、データの信頼性を高めます。照合結果が規定回数一致した段階で、ホストにデータを転送します。

照合回数を上げる方が誤読の発生を抑えることが可能となりますが、回数を上げるほど品質の悪いコードは読取りしづらくなりますので上げ過ぎにはご注意ください。(初期値:照合3回)

※この機能は1次元のバーコードにのみ機能します。



照合回数 0 回



照合回数 1 回



照合回数 2 回



照合回数 3 回



照合回数 4 回



照合回数 5 回

検知モード

検知モードには3種類のモードがあります。

1) 照明検知モード

赤色光が点灯した状態(時間が経つと高速点滅)となり読取りエリアにバーコードが入ると検知します。
明るい環境下でも使用可能です。



2) 緑色エイミング検知モード

緑色エイミングが点灯状態となりエリアにバーコードが入ると検知します。



3) 照明無効検知モード

赤色光も緑エイミングも点灯しない状態で検知を行います。消費電力は削減されますが、読取りは低下します。周囲光で検知を行いますので暗所では検知できません。この設定をご使用の場合は、明るい場所をご利用ください。

※スマホに表示のコードを読む場合、改善する場合があります。



二度読み防止時間の設定

同じバーコードを読み取りできないようにする時間を設定することができます。(初期値:400 ミリ秒)



70 ミリ秒



140 ミリ秒



400 ミリ秒



800 ミリ秒



同一バーコード読み取り不可

※同一コード読み取り不可の設定を行った場合、同じコード以外のコードを読んだ後はまた、読み取りができるようになります。

オートトリガスリープの設定

ターゲットを検知しない状況が一定時間続くとスリープ状態に移行します。このモードに移行した場合、検知用の緑色のエイミングが消灯し、消費電力が軽減できます。但し、暗所の場合は、スタンバイ状態に復帰できないためこのエイミングは点灯した状態になります。(初期値:60 秒)



スリープ無効



30 秒



60 秒



2 分



10 分



30 分

複数読取りの設定

読取り方式には、単発読みと複数読みの2種類の読取り方法があります。(初期値:単発読み)

単発読みは読み取れる範囲内にあるコードで一番中心に近いものを読取ります。

複数読みは読み取れる範囲内にあるコード全てを読取りします。(但し、同一コードは読取りできません)



単発読み



複数読み

液晶優先モード

液晶画面に表示されたコードを優先的に読み取る場合に設定します。(初期値:無効にする)

※設定を行うと紙面の移動体読み取りが低下します。



有効にする



無効にする

照明及びエイミングの設定

読取りLED照明（赤色LED）の設定

1) LED照明の有効/無効設定(初期値:有効)

読取り用赤色LEDの照明を無効に設定すると紙面に印字したコードは読取りが低下しますが、液画面に表示されたコードのみを読み取る場合は、読み取り性能が改善します。



有効



無効

2) LED照明輝度調整設定(初期値:標準輝度)

照明を低輝度にした場合、照明の明るさを軽減することができますが、移動体の読取り性能が落ちますのでご注意ください。



標準輝度



低輝度

反転バーコード(二次元コード)

通常、バーコード(二次元コード)は白地に黒で印刷されますが、希に黒地に白で印刷されたものもあります。この黒地に白で印刷されたものを反転バーコード(二次元コード)といい、読取りが難しいバーコードになります。(初期値:

この設定は、反転バーコード(二元コード)に特化して、読取り易くする設定になります。このため、『通常及び反転バーコード(二次元コード)読取り』の設定を施すと、通常のバーコードが読みづらくなります。



通常バーコード (二次元コード) 読取り



通常バーコード (二次元コード) 読取り
(反転読取り設定時用)



反転バーコード (二次元コード) 読取り



通常および反転バーコード (二次元コード) 読取り
(反転読取り設定時用)



通常及び反転バーコード (二次元コード) 読取り

※上記設定を行うとバーコード・二次元コードとも設定されてしまいますのでご注意ください。

データフォーマットの設定

はじめに

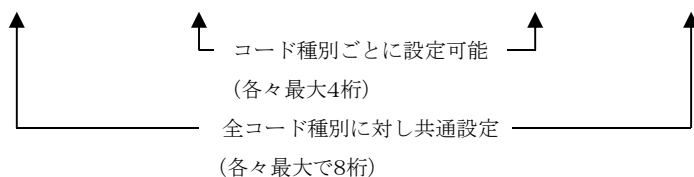
M-10USB は、各バーコード種別ごとに、任意のキャラクタをデータの前後に付加することができます。

プリフィックス(データ前に付加するキャラクタ)およびサフィックス(データ後に付加するキャラクタ)を、それぞれ最大 4 キャラクタ設定できます。

また、全コード種別に対して共通のコモンプリフィックスおよびコモンサフィックスを、それぞれ最大 8 キャラクタ設定できます。

データに対するコモンプリフィックス、コモンサフィックス、プリフィックス、サフィックスの付加位置は次の通りです

[コモンプリフィックス] [プリフィックス] [データ] [サフィックス] [コモンサフィックス]



プリフィックスの設定

プリフィックスには最大 4 キャラクタまで設定ができます。また、コモンプリフィックスには最大 8 キャラクタまで設定ができます。設定用のQRコードを記載させて頂くとかなりの量になってしまうため設定用のQRコードは記載いたしません。(初期値:付加なし)

設定をご希望の場合は、弊社にお問い合わせ頂くかメーカー様をご用意しています設定QRコード作成ソフト(Universal Config)を下記URLよりダウンロードの上、お客様にて作成をお願い致します。

http://www.opto.co.jp/products/tool/ToolDownload_temp.html

※上記URLはメーカー様のホームページのダウンロードページとなります。

データキャリア識別子について

データキャリア識別子の付加

JIS X 0530:2003 に準拠したデータキャリア識別子を、コモンプリフィックス、コモンサフィックスおよびプリフィックス、サフィックスに付加することができます。

下記QRコードを読取るとプリフィック又はコモンプリフィックスにデータキャリア識別子(AIM)を付加して出力するようになります。



プリフィックスにデータキャリア
識別子(AIM)を付加する



コモンプリフィックスにデータ
キャリア識別子(AIM)を付加する

※上記の『プリフィックスにデータキャリア識別子(AIM)を付加する』設定は全コードに付加する設定となっています。(種別コード別に付加したい場合は、弊社にお問い合わせ頂くか、上URLより設定用QR作成ソフトをダウンロードの上、お客様にて作成をお願い致します。)

(次ページへ続く)

(前ページから)

データキャリア識別子とは…

バーコードリーダが、読取ったデータを PC/ホスト機器に送信する際に付加する ID で、シンボル体系の種類、他、チェックキャラクタを検証したかどうか、送信データにはチェックキャラクタが含まれるのか含まれないのか、などの情報を表します。2000 年に ISO/IEC 15424 Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers) として制定された国際規格で、日本では 2003 年に JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』として JIS 規格化されました。

例) コード 39 の”C+O+D+E39”というバーコードを読取り、データキャリア識別子を付加して送信する場合:

1. フル ASCII 処理をしないでデータ送信…]A0C+O+D+E39
2. フル ASCII 処理してデータ送信……………]A4Code39

データキャリア識別子の内容:

]:データキャリア識別子を示すフラグ

A:コード 39 を示すコードキャラクタ

0:『チェックキャラクタ検証もフル ASCII 処理もしない』ことを示す変更子キャラクタ

4:『フル ASCII キャラクタ変換を実行/チェックキャラクタは検証しない』ことを示す変更子キャラクタ

※詳しくは、JIS X 0530 『データキャリア識別子(シンボル体系識別子を含む)』をご参照ください。

サフィックスの設定

サフィックスには最大 4 キャラクタまで設定できます。また、コモンサフィックスには最大 8 キャラクタまで設定できます。設定用のQRコードを記載させて頂くとかなりの量になってしまうため設定用のQRコードは一部だけ P80 に記載(コモンサフィックスのみ)しております。

(初期値:全種別コードのサフィックスに CR を付加しています)

設定をご希望の場合は、弊社にお問い合わせ頂くかメーカー様がご用意しています設定QRコード作成ソフト(Universal Config)を下記URLよりダウンロードの上、お客様にて作成をお願い致します。

http://www.opto.co.jp/products/tool/ToolDownload_temp.html

※上記URLはメーカー様のホームページのダウンロードページとなります。

ターミネータについて

M-10USB では、ターミネータをサフィックスの領域に設定しています。初期設定の状態では、ターミネータとして「CR」が、全コード種別に対するサフィックスに設定されています。

したがって、新たにサフィックスの設定を行う場合は、最後に「CR」を付加しないと、設定を行ったバーコード種別に対して「ターミネータなし」の状態になります。

※サフィックスに設定できるのは、ターミネータを含め 4 キャラクタ分ですので、キャラクタ数が不足する場合は、ターミネータをコモンサフィックスへ設定することをお勧めします。

ターミネータの解除

下記QRコードを読むとサフィックスに設定しています全てのキャラクタを『なし』にすることができます。

全コード種別のターミネータ解除(全サフィックスクリア)



(次ページへ続く)

(前のページから)

ターミネータの設定

下記の二次元コードを読むことでターミネータの設定を変更することができます。



Enter



Tab



なし



実行 (右 Ctrl)

※ターミネータはサフィックス内に設定されています。このためコモンサフィックスに設定を行った場合は、上記の『なし』のQRコードを読んでターミネータの設定を削除しないと残ったままになってしまいますのでご注意ください。

※サフィックスに設定を行った場合、ターミネータの設定は消えてしまいますのでターミネータの設定も残したい場合は、サフィックスの設定時に追加して設定を行うようにしてください。

コモンサフィックスの解除

下記QRコードを読むとコモンサフィックスに設定しています全てのキャラクタを『なし』にすることができます。



読取りバーコード(二次元コード)の設定

全コード種別読取許可(アドオン除く)

読取るコード種別がわからないときに設定してください。ただし、この設定を施すと、予期せぬコードを読取ったり、バーコードに近似した波形となるものをバーコードとして認識する場合があります。

コードの種別がわかった時点で、読取るコード種別のみ読取許可の設定を施すことをお勧めします。



アドオンを除く全バーコード読取り許可



全二次元コード読取り許可

※上記の全て読取り許可を設定すると全てのバーコード（二次元コード）から読取りの確認を行うため読取りまでに時間がかかるようになりますのでご注意ください。

全コード種別読取禁止



全バーコード読取禁止



全二次元コード読取り禁止

※“全二次元コード読取禁止”の設定を行うと設定用の二次元コードも読めなくなりますので読取りする場合は、一旦、P10の“バーコードでの初期設定”に設定してから読ませてください。

コード 39 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

フル ASCII 変換



変換する (コード 39 フル ASCII)



変換しない

スタート/ストップキャラクタの転送



転送する



転送しない

(次ページへ続く)

コード 39 の設定 (続き)

チェックキャラクタの検証



検証する



検証しない

チェックキャラクタの送信



送信する



送信しない

※上記のチェックキャラクタを『送信しない』に設定した場合、チェックキャラクタが入ってなくても末尾の1文字を削除してデータを送信しますのでご注意ください。

(次ページへ続く)

コード 39 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始／設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 1 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

インターリーブド(Interleaved) 2of5 の設定

読取り許可／不許可



読取り許可



読取り不許可

チェックキャラクタの検証



検証する



検証しない

チェックキャラクタの送信



送信する



送信しない

※上記のチェックキャラクタを『送信しない』に設定した場合、チェックキャラクタが入っていないなくても末尾の1文字を削除してデータを送信しますのでご注意ください。

(次ページへ続く)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始／設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インターリーブド 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦め致します。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 5 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

インダストリアル(Industrial) 2of5 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

チェックキャラクタの検証



検証する



検証しない

チェックキャラクタの送信



送信する



送信しない

※上記のチェックキャラクタを『送信しない』に設定した場合、チェックキャラクタが入ってなくても末尾の1文字を削除してデータを送信しますのでご注意ください。

(次ページへ続く)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始／設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※インダストリアル 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦め致します。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 6 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

マトリクス(Matrix) 2of5 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

チェックキャラクタの検証



検証する



検証しない

チェックキャラクタの送信



送信する



送信しない

※上記のチェックキャラクタを『送信しない』に設定した場合、チェックキャラクタが入ってなくても末尾の1文字を削除してデータを送信しますのでご注意ください。

(次ページへ続く)

マトリックス 2 オブ 5 の設定 (続き)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始／設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2 桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※マトリックス 2 オブ 5 では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定すると、非常に誤読が発生しやすくなります。

読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 5 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

UPC-A/UPC-E の設定

読取りの設定



読取り許可



読取り不許可

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送

UPC-A



UPC-A の先頭 0 付加なし
チェックキャラクタ 転送



UPC-A の先頭 0 付加なし
チェックキャラクタ 転送なし



UPC-A の先頭 0 付加あり
チェックキャラクタ 転送



UPC-A の先頭 0 付加あり
チェックキャラクタ 転送なし

(次ページへ続く)

UPC の設定 (続き)

UPC-E 設定

先頭キャラクタとチェックキャラクタの転送



UPC-E の先頭 0 なし
チェックキャラクタ 転送



UPC-E の先頭 0 なし
チェックキャラクタ 転送なし



UPC-E の先頭 0 あり
チェックキャラクタ 転送



UPC-E の先頭 0 あり
チェックキャラクタ 転送なし

UPC-EをUPC-Aに変換する



変換しない



変換する

EAN/JAN の設定

読取り設定



EAN/JAN の読取り許可



EAN/JAN の読取り不許可



EAN/JAN アドオン 2桁 の
読取りを許可



EAN/JAN アドオン 2桁 の
読取り不許可



EAN/JAN アドオン 5桁 の
読取りを許可



EAN/JAN アドオン 5桁 の
取り不許可

(次ページへ続く)

定期行物コード(新雑誌コード)の設定

この設定は、「491～」で始まる JAN コードを必ずアドオンつきで送信するための設定です。この設定を施すことにより、「491～」で始まる JAN コードのアドオン 5 桁を読み落とすことがなくなります

※この設定を行うと「491～」で始まる JAN コードは読取りできなくなりますのでご注意ください。



新雑誌コード
読取り無効



新雑誌コード
読取り有効

チェックキャラクタの転送



JAN/EAN 13 桁のチェックキャラクタ 転送する



JAN/EAN 13 桁のチェックキャラクタ 転送しない



JAN/EAN 8 桁のチェックキャラクタ 転送する



JAN/EAN 8 桁のチェックキャラクタ 転送しない

(次ページへ続く)

JAN/EAN の設定 (続き)

ISBN 変換

図書二段コードの上段バーコードを読取ったときに、ISBN に変換して転送することができます。



ISBN 変換する



ISBN 変換しない

書籍二段コードの読取り設定

書籍の二段コードの読取り設定は下記のバーコードのみ有効な設定となります。

- ・先頭が”978”の EAN-13 (一段目のバーコード)
- ・先頭が”191”または”192”の Instore-13 (二段目のバーコード)

書籍二段コードのデータ連結出力の有効／無効の設定

下記の有効設定をすることで一段目のバーコードを読み込んだだけでは出力せず、二段目も読み取った後でデータを連結して一括データを出力するようになります。(二段目を先に読んでも一段目が前に来て連結されます。)



無効 (データを連結しない)



有効 (データを連結する)

※無効の設定を行うと連結されずに2段で出力されます。

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定

読取り設定



読取り許可



読取りを不許可

スタート/ストップキャラクタの転送



A, B, C, D/A, B, C, D で転送する



a, b, c, d/a, b, c, d で転送する



a, b, c, d/t, n, *, e で転送する



A, B, C, D/T, N, *, E で転送する



転送しない

(次ページに続く)

コーダバー(Codabar / NW-7)の設定(続き)

チェックキャラクタの検証



検証しない



検証する

チェックキャラクタの送信



送信しない



送信する

※上記のチェックキャラクタを『送信しない』に設定した場合、チェックキャラクタが入っていても末尾の1文字を削除してデータを送信しますのでご注意ください。

(次ページに続く)

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始/設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※コーダバー (Codabar/NW7) では、最小読取り桁数を『1 桁』に設定することはできませんのでご注意ください。



最小読取り桁数の指定 (初期値: 2 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

コード 128 (EAN128 含む) の設定

読取り許可



読取り許可



読取り不許可

※EAN128 は GS1-128 と同じバーコードです。

コード 128 の読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始/設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



最小読取り桁数の指定 (初期値 : 1 桁)

(次ページへ続く)

コード 128 (EAN128 を含む) の設定 (続き)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

GS1変換

初期設定状態でGS1シンボル(GS1-128, GS1 DataBar, GS1 合成シンボル, GS1 DataMatrix, GS1 QR コード)のラベルを読取ると、可変長データの終端を示す FNC1 は転送されません。これは FNC1 が ASCCII に含まれないためです。GS1 変換では、ホスト側で GS1 データを解析できるように可変長データ終端の FNC1 を USB-HID の場合”Ctrl+]"に変換してキー出力し、USB-COM の場合は、GS (0x1D)に変換して出力します。但し、可変長データが最後の AI データである場合は、FNC1 は存在しないので GS も出力されません。

GS1-128 の GS1 変換無効の設定



GS1-128 (UCC/EAN128) 無効



GS1-128 (UCC/EAN128) 有効

〈初期設定状態〉

FNC1 (非出力)	AI	データ (固定長)	AI データ (可変長)	FNC1 (非出力)	...	AI	AI データ (可変長)
----------------------	----	--------------	-----------------	----------------------	-----	----	-----------------



〈GS1 変換後〉

・ USB-HID の場合

AIM-ID (出力)	AI	データ (固定長)	AI データ (可変長)	Ctrl+] (キー出力)	...	AI	AI データ (可変長)
-----------------------	----	--------------	-----------------	-------------------------	-----	----	-----------------

・ USB-COM の場合

AIM-ID (出力)	AI	データ (固定長)	AI データ (可変長)	GS (0x1D) (出力)	...	AI	AI データ (可変長)
-----------------------	----	--------------	-----------------	-------------------	-----	----	-----------------

GS1 変換のデータをスキャナ内で加工出力する場合

上記記載の出力内容を加工して下記の4つのモードで出力することができます。

変換モード1



設定開始/設定終了

AI を () で括弧^{くく}って出力するモードです。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456 “ENT”

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 1』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。

※『設定開始』と『設定終了』は同じバーコードとなります。

※バーコードでの設定の仕方はP10 の設定手順をご参照ください。



GS1-128 変換モード 1

変換モード2



設定開始/設定終了

読取りデータから AI を取除き、指定した区切り文字で出力します。

小数点の指定があるデータを読取った場合は、小数点を付加して出力されます。

出力例

ヒューマンリーダーブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456



出力データ

14912345678901 “TAB” 170329 “TAB” 1000 “TAB” 1234567890123456 “ENT”

※区切り文字に”TAB”を設定

『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。

※『設定開始』と『設定終了』は同じバーコードとなります。

※バーコードでの設定の仕方はP10 の設定手順をご参照ください。



GS1-128 変換モード 2



区切り文字設定

『区切り文字設定』を読み取ったあとは、66 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って、『設定終了』を読み取ります。

変換モード3



設定開始/設定終了

先頭の FNC1 を”]C1”に変換、2 つ目以降の FNC1(可変長データの終端)を”Ctrl+] ”に変換します。

出力データに AI は含まれます。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456



出力データ

”]C1” 011491234567890117170329301000 ”Ctrl+]” 101234567890123456

『設定開始』のあと、『GS1-128 変換モード 3』を読み取り、『設定終了』を読み取ります。

※『設定開始』と『設定終了』は同じバーコードとなります。

※バーコードでの設定の仕方は P 10 の設定手順をご参照ください。



GS1-128 変換モード 3

変換モード4



設定開始/設定終了

2 目以降の FNC1 を任意のキャラクタに変換して出力します。

出力例

ヒューマンリーダブル

(01) 14912345678901 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

↓

出力データ

011491234567890117170329301000 ”F1” 1234567890123456

※2 回目の FNC1 に”F1”を設定

『設定開始』のあと、下記の設定バーコードを順番に読み取ります。

※『設定開始』と『設定終了』は同じバーコードとなります。

※バーコードでの設定の仕方は P 10 の設定手順をご参照ください。



GS1-128 変換モード 4



先頭”]C1”を出力しない



FNC1 変換キャラクタ設定

FNC1 変換キャラクタ設定を読み取ったあとは、66 ページからの『附属書1. フル ASCII バーコード』、『附属書2. 特殊キー対応バーコード』から区切り文字に使うキャラクタを読み取って『設定終了』を読み取ります。

GS1-128 の読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始/設定終了

最小読取り桁数の指定

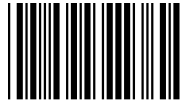
『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお薦めします。



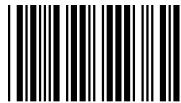
最小読取り桁数の指定 (初期値 : 1 桁)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

GS1 DataBarの設定

読取り設定

GS1 DataBar



読取り許可



読取り不許可

GS1 DataBar Limited



読取り許可



読取り不許可

GS1 DataBar Expanded



読取り許可



読取り不許可

GS1 DataBar Composite



読取り許可



読取り不許可

コード 93 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始/設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※読取るバーコードの桁数が決まっている場合は、誤読防止のため桁数を固定することをお勧めします。



最小読取り桁数の指定 (初期値: 1 桁)

(次ページに続く)

コード 93 の設定（続き）

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。（例：8 桁の場合は、08 と読んでください。）

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

MSI/Plessey の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

読取り桁数範囲の指定

最小読取り桁数および最大読取り桁数を設定できます。

最小桁数と最大桁数を同一に設定すると、桁数固定になります。



設定開始/設定終了

最小読取り桁数の指定

『設定開始』、『最小読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読み取り、『設定終了』バーコードを読み取れば設定完了となります。

※『設定開始』と『設定終了』のバーコードは同じバーコードとなります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例: 2桁の場合は、02と読んでください。)

※最小桁数は最大桁数以下になるように設定してください。

※MSI/Plessey では、最小読取り桁数は初期値の『3 桁』以下に設定することは出来ませんのでご注意ください。



最小読取り桁数の指定(初期値 : 3 桁)

(次ページに続く)

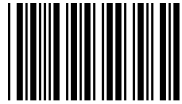
MSI/Plesseyの設定 (続き)

最大読取り桁数の指定

『設定開始』、『最大読取り桁数の指定』、P70『数字バーコード 2 個』を読取り、『設定終了』バーコードを読取れば設定完了となります。

※1 桁設定でも数字バーコードは 2 個読ませてください。(例:8 桁の場合は、08 と読んでください。)

※最大桁数が最小桁数以上になるように設定してください。



最大読取り桁数の指定

PDF417 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

マイクロ PDF417 の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

QR codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

Micro QR codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

Data Matrix(ECC200)の設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

Aztec Codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

Maxi Codeの設定

読取り設定



読取り許可



読取り不許可

OCRの設定

マイナンバー



有効



無効

免許証ナンバー



有効



無効

ISBNコード



有効



無効

※上記を有効にすると読ませるISBNのまま出力されます。

例えば、「ISBN4-274-94692-4」と記載されていれば、そのままISBN4-274-94692-4が出力されますのでご注意ください。

(次ページへ続く)

保守メニュー

ファームウェアのバージョン確認



バージョン確認

上記のQRコードを読取ると、ファームウェアのバージョンが、データとしてスキャナから転送されます。

※出力の際は、先にメモ帳等を立ち上げた状態で上記QRコードを読むようにしてください。

※この取扱説明書は、ファームウェアバージョン『BA01J30』以降に対応しています。

附属書1. フル ASCII バーコード



Ctrl+@



Ctrl+A



Ctrl+B



Ctrl+C



Ctrl+D



Ctrl+E



Ctrl+F



Ctrl+G



Ctrl+H



Ctrl+I



Ctrl+J

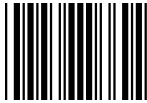


Ctrl+K

(続き)



Ctrl+L



Ctrl+M



Ctrl+N



Ctrl+O



Ctrl+P



Ctrl+Q



Ctrl+R



Ctrl+S



Ctrl+T



Ctrl+U



Ctrl+V



Ctrl+W

(続き)



Ctrl+X



Ctrl+Y



Ctrl+Z



Ctrl+[



Ctrl+\



Ctrl+]



Ctrl+^



Ctrl+_



スペース(空白)



!



“



#

(続き)



\$



%



&



'(シングルクォート)



(



)



*



+



, (カンマ)



- (ハイフン)



.

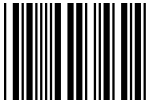


/

(続き)



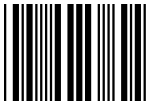
0



1



2



3



4



5



6



7



8



9



:



;

(続き)



<



=



>



?



@



A



B



C



D



E

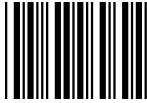


F

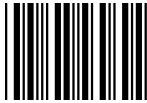


G

(続き)



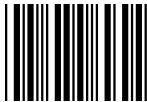
H



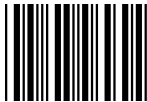
I



J



K



L



M



N



O



P



Q

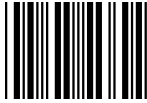


R

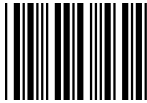


S

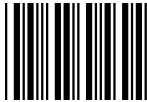
(続き)



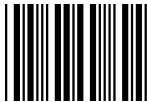
T



U



V



W



X



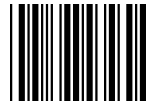
Y



Z



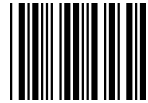
[



¥



]



^



_(アンダーバー)

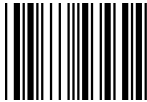
(続き)



˘(バッククオート)



a



b



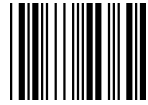
c



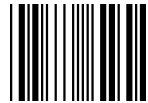
d



e



f



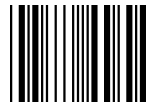
g



h



i



j



k

(続き)



l



m



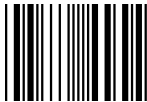
n



o



p



q



r



s



t



u



v



w

(続き)



x



y



z



{



|



}



~



Ctrl+BackSpace

附属書2. 特殊キー対応バーコード



F1



F2



F3



F4



F5



F6



F7



F8



F9



F10



F11



F12



↑



↓

(続き)



←



→



Caps Lock



Tab



Return



テンキー Enter



Alt 開放



Alt 押下



Insert



Home



End



Delete

(続き)



Page Up



Page Down



Backspace



左 Ctrl 押下



左 Ctrl 開放



右 Ctrl 押下



右 Ctrl 開放



Shift 開放



Shift 押下



Esc



コード識別子(AIM)



バーコード桁数(1D=2桁、2D=6桁)



バーコード桁数(1D,2D=6桁)

コモンサフィックス用設定QRコード

※下記に記載のものは代表的なものだけを載せています。

これ以外のもも付加することは可能ですので付加したいものがありましたらお問い合わせください。

※下記設定を行った場合、サフィックスの「CR」は付加されたままとなっていますので不要の場合は、ターミネータの解除（P28）のQRコードにて全サフィックスクリアを行ってください。



Enter



Tab



右 Ctrl



Backspace



ESC



Space

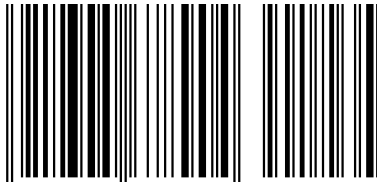
サンプルバーコード

JAN / EAN-13



4 912345 678904

JAN / EAN-13 + アドオン 5桁 (新雑誌コード)



4 912345 678904 4 1 2 3 4

JAN / EAN-8



4912 3456

UPC-A



0 01234 56789 5

UPC-E



コード 39 (チェックキャラクタなし)



コード 39 (チェックキャラクタ付)



コード 39 (フルアスキー)



コードバー (チェックキャラクタなし)



a123456789a

コードバー (チェックキャラクタ付)



a123451a

コード 128



NICHIEI-INTEC

GS1-128 (EAN/UCC-128)



(01) 1 4912345 67890 1 (17) 170329 (30) 1000 (10) 1234567890123456

インタリーブド2 オブ 5



0123456

ITF-14



14560151181353

GS1 Databar Omnidirectional



(01) 0 0614141 99999 6

GS1 Databar Limited



(01) 0 0614141 99999 6

GS1 Databar Composite



GS1 Databar Expanded



PDF417



マイクロ PDF417



QR コード (全角のみ)



日栄インテック株式会社

QR コード(半角のみ)



01234567890

マイクロ QR コード



01234567890

Data Matrix



01234567890

Aztec Code



01234567890

(編集の都合上、このページは空白です)

日栄インテック株式会社

開発事業部 Auto-ID グループ

〒110-0016 東京都台東区台東 3-42-5

日栄インテック御徒町第1ビル

TEL 03-5816-7141 FAX 03-5816-7140

E-Mail info@barcode.ne.jp

URL <http://www.barcode.ne.jp/>

2018年7月作成